

重度・高齢化に対応したグループホーム

株式会社ゆう建築設計
竹之内 啓孝

事例1. 重度対応型グループホーム

車椅子利用者対応のグループホーム

社会福祉法人福知山学園
グループホーム 響・奏（京都府福知山市）

事業内容：共同生活援助 7名+7名、居宅介護支援事業所
床面積：260㎡+250㎡
構造：木造 平屋建
設計期間：2013年～2014年 工事期間 2014年

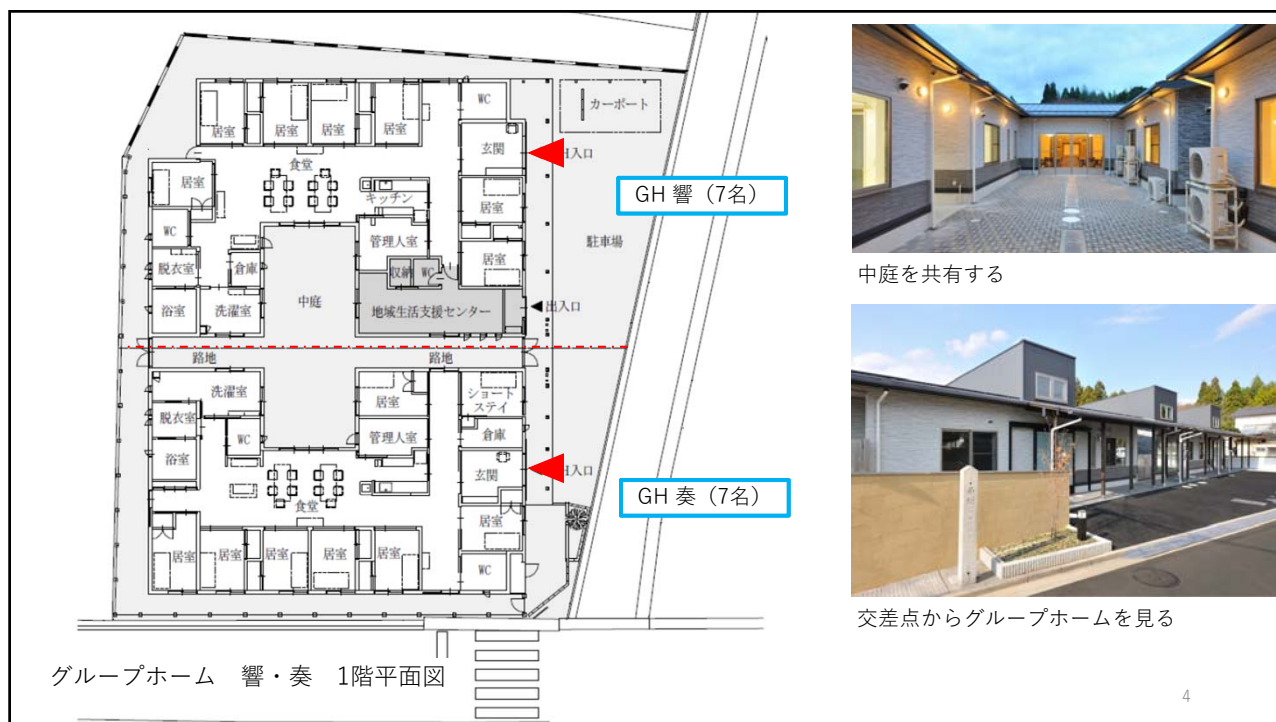


<設計時、入居対象となる利用者の想定を行なった>

- ・入居者は365日・24時間の支援を受けて生活
- ・重度心身障害、障害支援区分6の方
→移動・食事・排泄・入浴：一部介助、または全介助を必要とする方
- ・できることは「自分（達）で」。できないことは介助し機能維持を図る。
- ・行動障害（多動・他傷・粗暴・破壊・奇声・飛出し）のない方
- ・常時、専門的な医療ケアを必要としない

※5年後の現在

- ・車椅子利用者は14名中7名
- ・強度行動障害というまでではないが、粗暴行為、奇声のある利用者がいる。
- ・日中は近隣の同法人の生活介護事業所に通う



グループホームのリビング・食堂



大型車椅子利用者が住まう広さ
居室にすぐ目が配れるつくり

※5年後の現在
個人の居室で過ごす利用者
リビングから声がけしたりなど
様子を伺うことができるので、
このプランであれば対応可能。



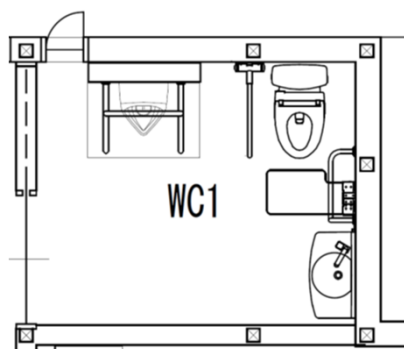
ソファコーナー

5

大型車いす対応のトイレ

身体的な介助を必要とする方のすまいに
設置されたトイレ

- ・手摺や補助器具を設置 (増設対応可能)
- ・モップ拭きでの清掃が前提 (乾式)



拭きとりがしやすい耐水性のある壁

グループホーム奏
男性用多目的WC



※5年後の現在
2人介助が必要な利用者にも対応可能な広さ

6

介助が必要な方の浴室
リフト付個浴の浴室

使用開始後に入居者に合わせて手摺取り付位置を決定
(写真は手摺取付前)

※5年後の現在

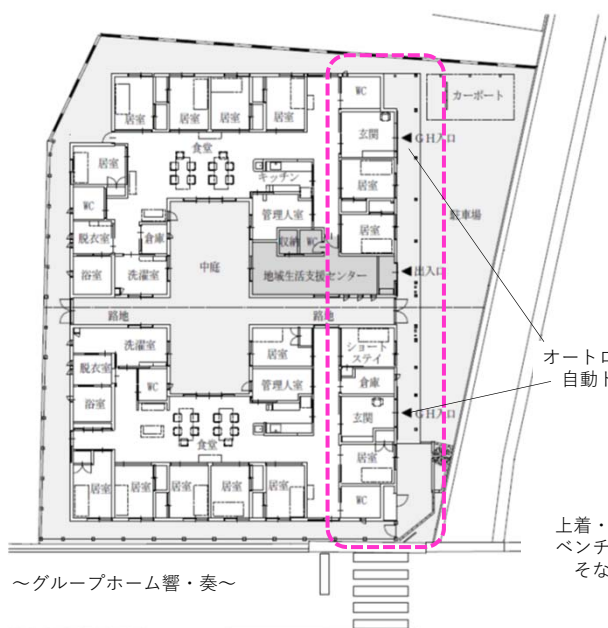
- ・生活介護事業所での入浴支援を受ける利用者
- ・夜間入浴をグループホーム内で行う利用者



7



外出するためのスペース グループホームの玄関



～グループホーム響・奏～



- 左) 塀のない車寄せ：道路からセットバックしている
- 右) 車椅子利用者が送迎を待つ軒下スペース

オートロック
自動ドア

上着・長靴、履き替え用
ベンチを収納する家具を
そなえた玄関スペース



床：ダストコントロールカーペット

8

事例 2. 個人に合わせた街中の重度対応型のグループホーム

■ 既存建物と入居者状況

□ 既存建物の様子



□ 既存建物の状況



階数	1 階	2・3 階
程度	重度	軽度
人数	女性2名	女性7名
入居者の特徴	Aさん ・てんかんを持つ重症心身の入居者 ・日中ベッドで横になっているか、ベッド横の車椅子に座っている。 ・座位保持不可。 ・全介助が必要。 Bさん ・ほとんど車椅子の生活。 ・つかまり立ちが出来るが入浴や排泄介助が必要。 ・胴回りが非常に大きい ため、世話人の介助への負担が大きい。 AさんBさんとも生活介護に通っている。	・軽度の知的障害者 ・自立歩行が可能 ・日中は就労継続支援B型に通っている。

■法人の持つ施設概要

入所施設

入所支援：50名

生活介護

重介護グループ：15名
軽作業グループ：15名
自閉症グループ：15名
作業グループ：15名
計60名

肢体不自由の重複により車椅子を利用している方や、食事、排泄、入浴などの日常生活において常時介護が必要な方たちの利用が可能。

就労系支援

軽作業生活介護：20名

就労継続支援B：14名

就労移行支援：6名

軽作業から工賃が発生する作業、職場探しなどの就職に向けた準備まで幅広い支援を行う。

グループホーム

7事業所：合計46名

計画建物

障がいのある方々が自分たちの生活を営むところです。地域において安心して生活できるように、必要な介護や支援を行う。

■計画概要

□敷地周辺写真



□計画建物概要

- ・ 3階：軽度5名の居室
- ・ 2階：重度2名の居室、食堂
- ・ 1階：地域生活支援センター



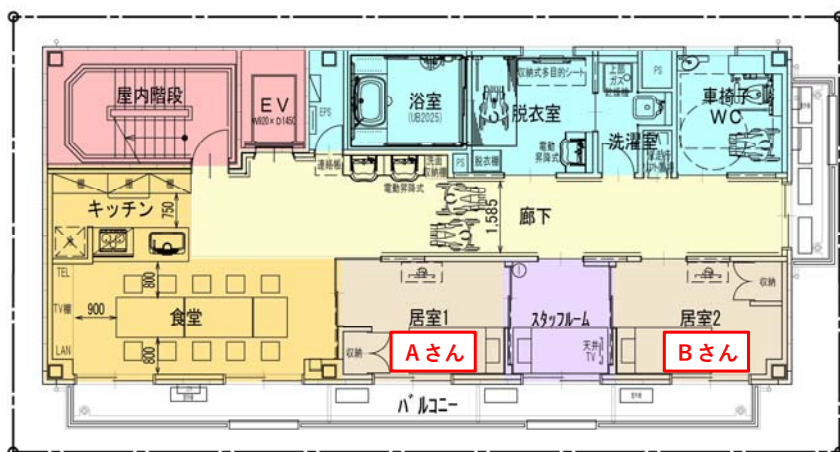
■2階平面図（AさんとBさんの居室）

支援員：16時～翌朝9時

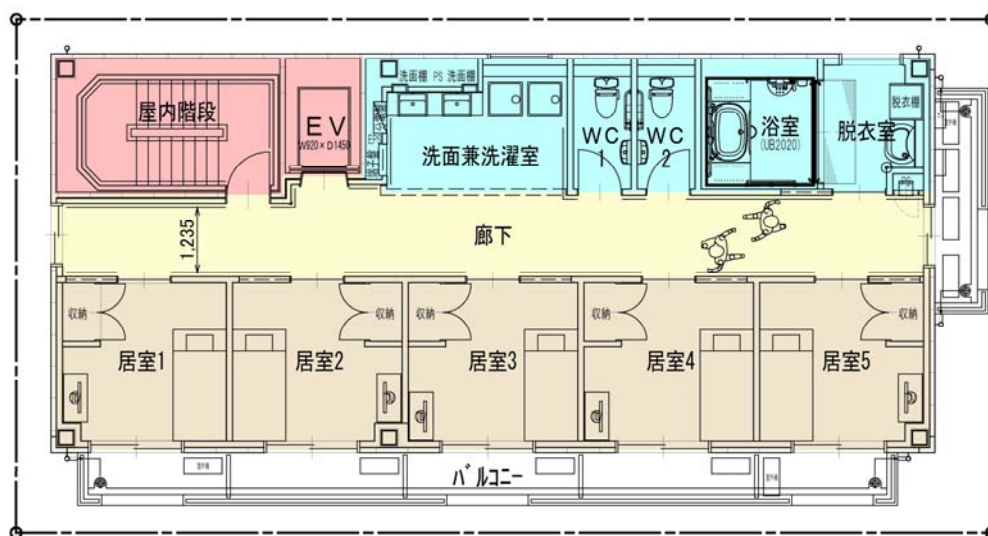
重度と軽度に1名ずつ

計2名

時間	一日の流れ
6:00～	起床
7:00～7:30	朝食
9:00～9:30	出発
16:00	帰宅
16:00～18:00	入浴
18:30～19:00	夕食
20:00	就寝（重度の方）
22:00	就寝（軽度の方）



■3階平面図（軽度の方の居室）



1. Aさんに合わせた見守りがしやすい居室プラン

□ 居室の開放できる間仕切り

- てんかん発作の予兆を早期に発見のため、日中キッチンや食堂から居室の中を見守る。

□ 居室の隣に宿直室を隣接

- 夜間もてんかん発作の予兆を早期に発見できる。

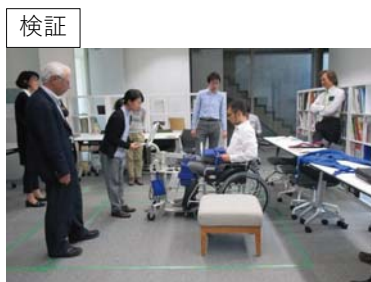


Aさんの居室の間仕切り開放しキッチンからベットを見守る

2. Bさんに合わせた床走行リフトの検証

□ 床走行リフトの検証

- 取り回しに必要なスペースも検証しながらトイレの大きさを決定。
- 胴回りの大きな方でも利用できる床走行リフトをメーカーと検証。



必要スペースの検証



床走行リフトの検証

3. AさんとBさんに合わせた浴室計画

□Aさんに合わせた浴室計画

- 脱衣室に収納式多目的ベッドを設置。

□Bに合わせた浴室計画

- 残っている身体機能を使ってもらうためトイレ用の跳ね上げ手摺りを脱衣室に設置。
- 怖がらずにリフトが利用できるか実際に検証。



検証



リフトの検証



跳ね上げ手摺り



収納式多目的ベッド

事例3. グループホームの設計で大切にすること

河井 美希

3つのホーム

菜の花ホーム／リアン／ホームすみれ

暮らす人：

知的や身体に重い障害があるが、グループホームという小さな場所での共同生活が可能な方

グループホームとは

障害のある人も地域社会の一員として生活をする場所

建築側からの機能的な支援のほかに大切に考えることが2つある

1. 地域との関係性
2. ほっとする生活空間

1 地域との関係性

「ホームで本当に安心して生活をおくるためには、周辺の方々の理解と見守りが必要」

- 地域の方に、ホームのこと、そこで暮らす人々のこと知ってもらい、そして受け入れてもらわなければならない
- その場所にあった、たたずまいで建てる

菜の花ホーム（定員9名+ショート2名） 京都府与謝郡与謝野町／よさのうみ福祉会

入居者の大半が、家庭や入所施設で暮らしていたが、初めてホームで暮らす
この地区で重度の方が暮らすことができるようなホームの建設は長年切望されていた



菜の花ホーム

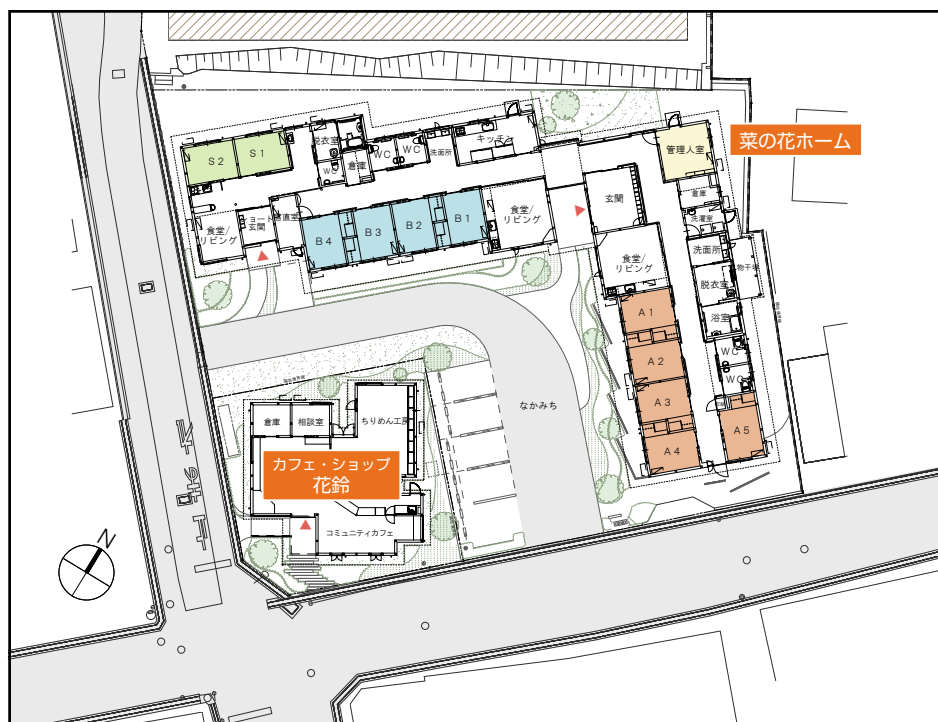
300坪もの広い敷地

菜の花ホーム



京都府北部の与謝野町にあるこの一帯は、伝統的な商家や丹後縮緬工場を併設した民家が残る。落ち着いた町並み

菜の花ホーム



障害のある方も働く地域の集会所的な役割も担うカフェも併設

カフェとホームの間には通り抜けのできるみちを作っている。



菜の花ホーム

ホームの個室とリビングはこのみちに面して、木製の柵や樹木でさりげなく視界をさえぎっている。



菜の花ホーム



菜の花ホーム

この道を往く人々は部屋から漏れてくる明かりや人の動きから、ホームの日常を感じることができる。

リアン

(定員5名+5名)

徳島県美馬市／徳島県手をつなぐ育成会

この法人は一棟貸しのアパート形式のホームしかなかったが、高齢・重度の方が暮らせるようなホームが必要となった。法人としては初めて、一から建てることとなった。



リアン

のどかな田園風景。
住宅がぽつぽつと建っている。



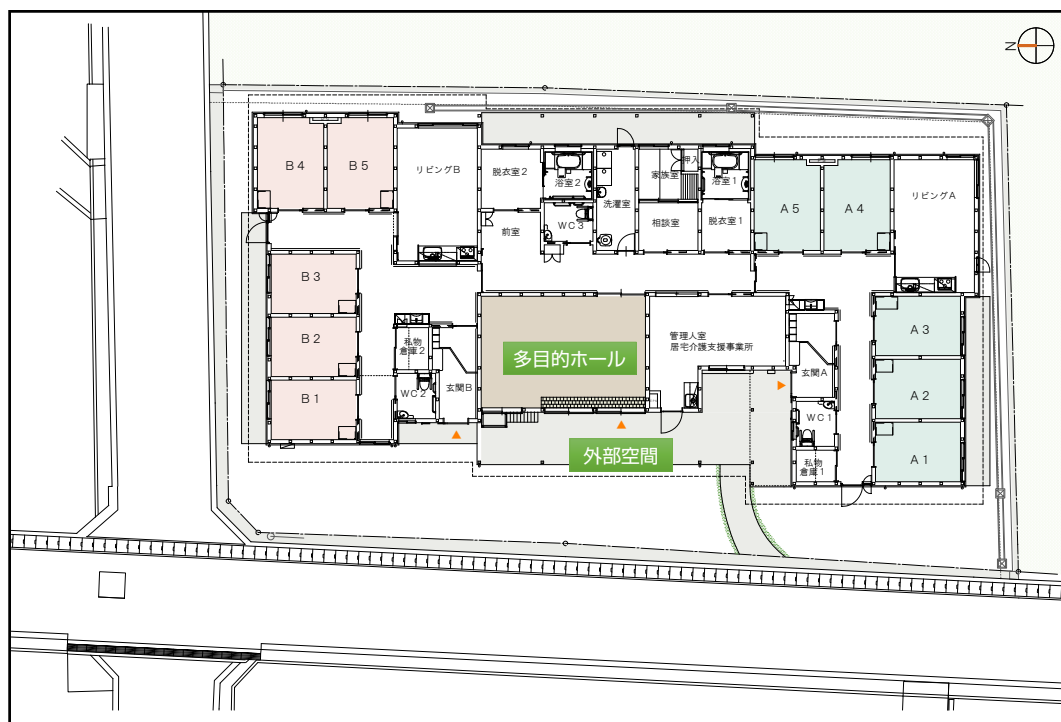
リアン

延々と続く徳島県の山なみ
吉野川の堤の竹やぶ



リアン

山並みに呼応するように、建物を3つの棟に分け、ゆるやかに屋根をかけた



リアン

農作業の合間にもふらりと立ち寄ってもらえるような深い軒の外部空間



リアン

地域の積極的利用を目的としたホール

開放的な軒下が人を招き入れる

ホームすみれ（定員6名+6名） 京都府宮津市／よさのうみ福祉会

菜の花ホームと同じ、よさのうみ福祉会のグループホーム
他の二つのグループホームと異なり、ホームでの生活が初体験ではなく、既存ホームの統合により、新しいホームへ引っ越してこられる。
敷地の隣には既存のホームがあり、すでに地域の中に加わっている。
そういった意味で、地域に受け入れられるかどうかということとはあまり心配していなかった。

ホームすみれ



比較的新しい住宅が立ち並ぶ。
取り立てて特徴の無い、どこにでも
あるような風景

ホームすみれ



建物を風景になじませる手段として
屋根の色や勾配を合わせたり、
伝統的な特徴の残る場所であれば
その要素を取り入れたりするが、
この場所にはそのようなデザイン
ソースが無い



ホームすみれ

美しいとはいえない、
どこにでもあるよう
な風景に溶け込みつ
つ、
ホームが建つことで
少しでも町並みが感
じよいものとならな
いか。



ホームすみれ

道路に面している大きな窓は、1階と2階のそれぞれのリビング



沿道には小さいながらも木を植えて、
街に潤いを与える。

ホームすみれ

建物の一部が、既存のホームの奥からのぞく



ホームすみれ

建蔽率 目一杯に建つ。
敷地北側には市営住宅があり、窓が
すべて南側を向いている。
新たに建てるホームは南側に居室を
取らなければならない。
南の既存のホームと相対しないよう
に、また、できるだけ距離をとるた
めに、既存に対し角度をふった。



ホームすみれ

居住エリアは2戸単位の棟の集合

入居されるのは、すでにホームでの生活に慣れている方。
居室の独立性が高いほうがいいだろうとも考えた。

グループホームと地域との関係性を考えるとき

菜の花ホームやリアンのように、建物を外部に開放的に作り周辺と積極的なかわりを持つとうとする方法もあるが、建物は建つだけですでに地域へ参画している。

その土地にふさわしいかたちで、周囲と馴染みつつ、良い風景を創造することが、グループホームと地域との関係を良好にするあしがりとなる。

2 ほっとする生活空間

知的障害者のすまいにおいては、機能面の工夫だけではなく、ほっと穏やかに暮らすための仕掛けも必要ではないか。

心地よさの感じ方はみんな違う。

しかし、暮らす方がどうしたら心地よいと感じるかということを想像する。



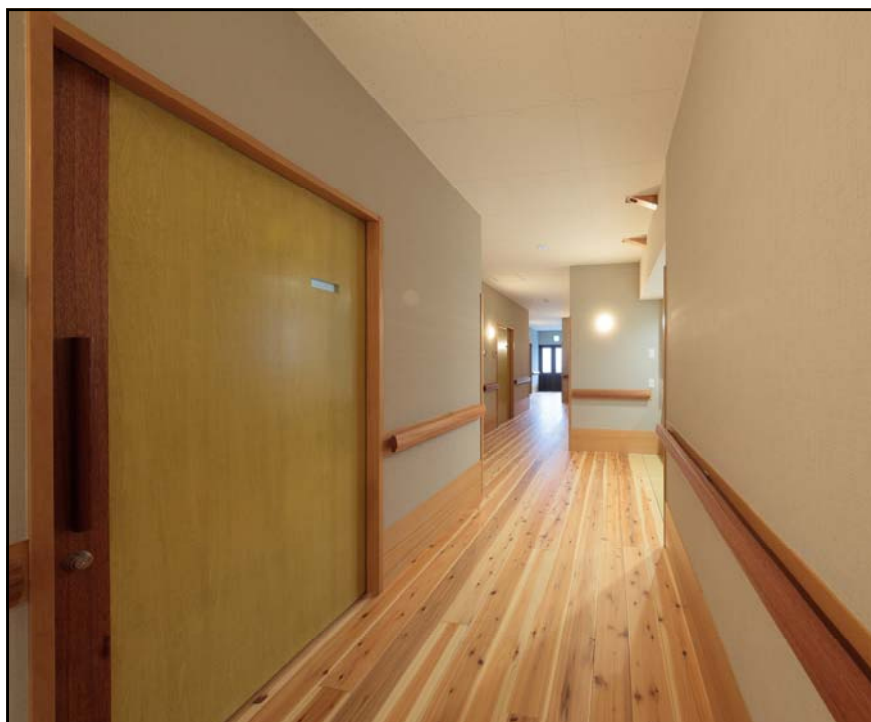
菜の花ホーム



ホームすみれ



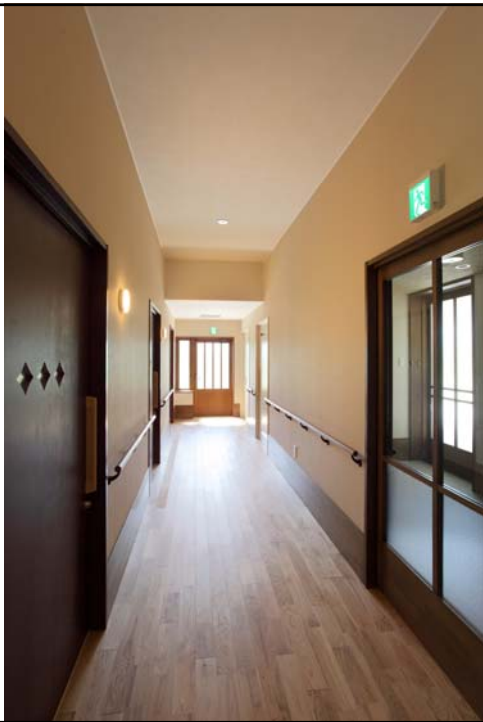
ホームすみれ



ホームすみれ



ホームすみれ



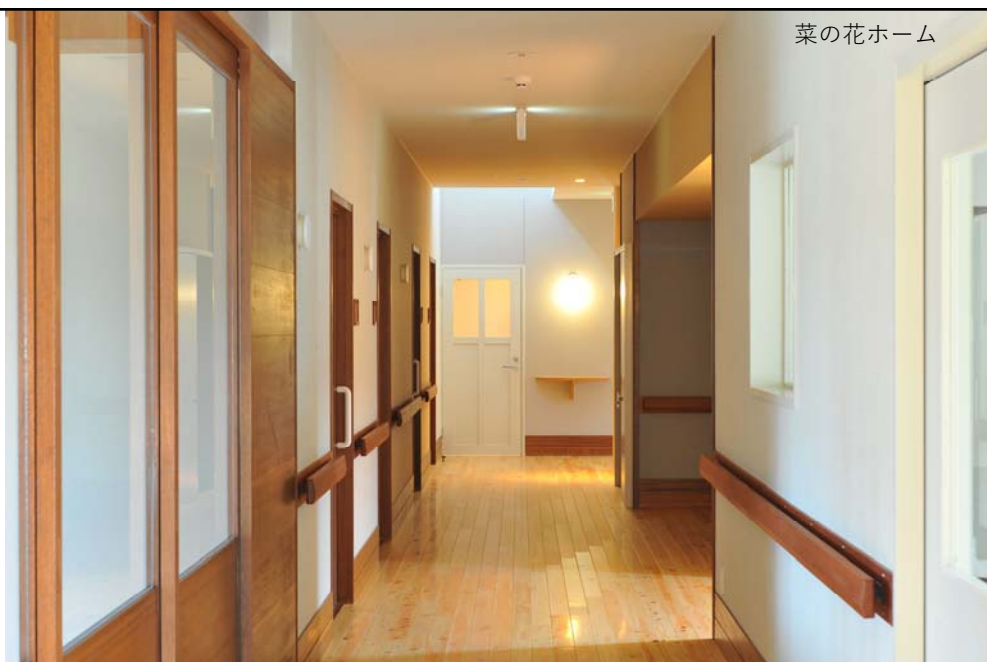
リアン



リアン



リアン



菜の花ホーム

住まい手が、建物に愛着がもつことができ初めて、その人らしい誇りある生活を送ることができる